

「自治体戦略2040構想研究会」第4回議事概要

日 時：平成29年12月7日（木） 15：30～17：00

場 所：総務省第3特別会議室

出席者：清家座長、牧原座長代理、飯田委員、池本委員、大屋委員、林委員、
村上委員、横田委員

安田事務次官、山崎自治行政局長

事務局：植田行政経営支援室長

【議事次第】

1. 開会
2. 事務局説明資料（インフラ・公共施設、公共交通）について
3. 意見交換
4. 閉会

【意見交換(概要)】

- 乗合バスや鉄道など地方の公共交通機関は、路線距離の減少という問題もあるが、県境などで分断され、公共交通網としての機能を維持できるのかという問題もある。高校生が主要な利用者であり、その人口推移を踏まえると、公共交通機関で移動可能な範囲にはより深刻な影響が出ているのではないか。
- デジタル化が新しいインフラではないか。今後、電気、ガス、水道でスマートメータの普及が進めば、これを使ってお年寄りをモニタリングする見守りができる。デジタル化で生活の基盤が大きく変わるので、少子高齢化の一つの解決策として取り組んでいくことが必要ではないか。
- インフラの更新に当たって、地域によっては住民に対して説明する縮小戦略が必要ではないか。広域化を通じてインフラをまとめていく中心になるような都市部と、誘導する形で徐々に無人化させていくエリアを選んではいけないと非常に厳しい状態となるのではないか。
- インフラの長寿命化については、今後5～10年ではなく2040年を見据えて逆算して考えるべき。
- 2040年がどうなるかはわからないと考えるのが安全。わからないことに対してどう対応していくのか、どういう状態になったら何をするという戦略を早い段階で決めておく必要がある。そのためには、情報を見えるようにして、住民に話し合いでしっかりと選んでもらえるような具体的なで実感のできる選択肢を早めに示す必要がある。

例えば、インフラ更新など世代をまたぐ話は、長期間の激変緩和措置を導入して、その間に家の建て替えも含めて考えてもらうなど、時間的猶予を戦略的に作っていく必要がある。

- 人間は危機意識がある程度あれば考えられるが限界を超えると考えなくなる。危機をあおり過ぎず、建設的な議論に向かうような選択肢や仕掛けが必要。
- デジタル化については3点の課題がある。一点目はプライバシー。個人情報の利用について手当が必要。二点目は電波。地域によって電波が入らないエリアもある。通信事業者が従来の技術を切り捨てることもあり、サービスが継続されるか注視が必要。三点目は、デジタルは情報のやり取りにしか使えないこと。物の流通と結びつく必要があるが、労働力が制約となるのではないか。
- インフラ更新の制約要因は、費用ではなく、それを支えるだけの労働力ではないか。既に技能労働者が高齢化する一方、若者は建築・土木業界に来てくれない。
- 日本は70～80年代に建設したインフラの更新時期がこれから来る。このタイミングでやめようと思ったら、やめられるものが出てくる。今が、更新するのか、たたむのかという議論をするタイミングではないか。
- 子育ての分野でも、遊具の老朽化や保育園の建て替えが問題となっている。また遊具の安全性について、親が自主点検して行政に訴える活動もあると聞く。こういった点検を市民参画によって行うことも模索すべきではないか。
- 公共施設には、点の施設と線と面の施設があるが、点の施設の集約化はスムーズにいく一方で、線と面の施設は費用がかかるのではないか。スポンジ化に対処するための市民参加の取組は労力がかかっているため、一気にスポンジ化が進んでいったときにどのように対処するかが課題となる。
- 自動運転は、人口の少ない地方部では導入が進むのではないか。一方で、都市部ではスポンジ化したとしても自動運転はやや怖い。その場合には、都市のコンパクト化が必要になってくる。
- 都市のコンパクト化は2040年の次の20年か30年まで続けることが必要ではないか。ただし、都市部には結局人口が流入し、地域によっては人口がもっと集中するところも出てくるのではないか。スポンジ化とコンパクト化と人口集中とがまだら模様になった場合の都市計画手法や市民参加の手法を磨いていく必要がある。
- 人口減少下においては、公共下水道と浄化槽の関係やミニバスと自動運転自動車の関係のように、「集積化」と「個別化」の対応を、どう組み合わせるかではないか。

- セキュリティーを確保した上で、インフラの点検を行う人材の不足に対応するIoT化や医療のバイタルデータを利用した一次的な診断など、技術革新の可能性を考慮する必要があるのではないか。
- 地域における交通手段の違いについて、地方部ではほとんどが自動車移動であり、いずれ自動運転を導入しなければならないのではないか。人口減少がドライビングフォースとなって技術革新を進めていくような政策的対応がありうるのではないか。
- インフラの維持について、既に無住化が進む地域を予測する資料はあるが、今からその地域の道路は廃止するという選択肢を示すことができるのか。例えば、在宅福祉について、スポンジ化を放置して福祉を維持できるのか。どのインフラを維持するのかという議論と同時に集住との組み合わせも検討する必要がある。
- アメリカでは例があるが、コンパクトシティの究極版としてお年寄り用の都市（リタイアメントシティ）がある。そういった形での集住も考えていく必要がある。例えば、税制などで誘導することも考えられる。
- ドイツではレベル3の自動運転車が発売されたが、日本では公道を走れない。一番自動運転の需要が高い国で法整備が遅れている。自動運転が事故を起こしたときの法的な責任の所在を整理する必要がある。
- 地方部での移動については、必ずしもフルスペックの自動車である必要はないのではないか。
- 都会ではミニカー（小型特殊）が問題になっているが、農業機械の延長として規格が残ったもの。地方部では限定された需要があり、安全性の面でも他の規格と区切れるが、その規格で都内を走り回っている。うかつな規格をつくると思慮しない用途で使用されうることを押さえておく必要がある。
- 日本の独自規格のモデルを企業が開発してくれるかという問題がある。
- 見守りについて、現状ではモニターでお年寄りなどが動かないことが分かっても警備会社は窓を壊して踏み込むことはできない。一定の場合には踏み込むことも可能にする法整備が必要ではないか。
- スポンジ化について、ある程度の人口規模を持つ都市であれば、店賃が無料であれば借りたい人はいるので、解決策となる。ただし、商店街の反対などで店賃が下がらないという問題がある。成功している地域では、行政、議会、商店街にキーパーソンがいて、関係者を説得して合意形成している。成功の方法論を蓄積していく必要がある。
- 人口減少に伴うインフラの集積のプロセスは期間を置いて決めること、恨

まれないようにみんなでやることが大切ではないか。今のように各地域で人の奪い合うのとは違ったゲームをしなければならない。

- ある橋がなくなればその先のエリアは住めなくなるなど、インフラを決めることが住まい方を決めるという面もある。個々の家庭の置かれた状況がそれぞれ違うということを前提に、インフラの更新について考える時間を与えれば良い選択をするのではないか。
- 例えば、あるインフラについて、30年間は維持するが、その後は財政が良くなっていたら維持することとし、そうでなければ住民負担で維持するか除却するというと、個々の世帯の生き残りの戦略を刺激して、ソフトランディングできる。準備する時間、考える時間を創造的に作り出すような取組が必要ではないか。
- 自治体の戦略として人口の維持が命題となっているが、マイナスサムゲームをみんなで戦うというのは莫大な資源の無駄遣いであり、人口増は全自治体の使命ではないということを出していく必要がある。例えば、人口を維持するための自治体間のサービスの競争が過熱すれば、地方財政に深刻なダメージを与えるのではないか。
- インフラの縮小を図る地域が、その費用・代償を受け取れるシステムにしてもいいのではないか。
- 撤退はこれからの最大の公共事業ではないか。
- 降雪地域ではCCRC（Continuing Care Retirement Community）構想のような取組が進んでいる。雪下ろしを集団で出来なくなった時点でマンションに移らざるをえない状況になっている。雪が降らない地域はその必要性がなく、多少金銭的なインセンティブをつけて誘導する必要があるのではないか。
- 体が動く60歳くらいで、コミュニティで楽しめるくらいの時に移住を決断したほうがよい。一般の方がポジティブな選択肢だと理解してもらうことが必要。
- どのようなスケールでたたみ方を考えるのかは自治体戦略でもあり国の戦略でもある。西日本と東日本でも違うので、エリアごとに考えていかなければいけない。
- 中越のある集落が集団移転を決めたが、数十年前に隣の集落が移転していて、実情を知っていたため、意見がまとまりやすかった。
- ある地域の集落が山の麓から移転した際には、行政がその周りに公営住宅を作った。家をつくって移転する人は移転するし、家を建てない人はその周りの公営住宅に入り、コミュニティとしてはまとまることができた。

- 移民と外国人労働者の問題はいずれ考える必要があるのではないか。
- 2040年時点の個々の地域の姿はわからないかもしれないが、それは運命的に与えられるものではなく、戦略的に我々がつくっていくことができるもの。我々の意思で2040年をいいものにできるという議論をすべきではないか。

以 上